

社会福祉法人自立支援協会の事業、理念、職場の様子

～障害者の地域での暮らし、自立生活の実現をすすめる～

1.事業の紹介

障害者が地域であたりまえの暮らしができるよう包括的に事業を展開しています。以下が、主な事業です。

【ヘルパー事業(居宅介護、重度訪問介護、移動支援、行動援護等)】

日々の暮らしに支援を必要とする人にとって欠かすことのできない存在で、一人一人のニーズに沿った支援を行うヘルパーによる支援

【グループホーム(共同生活援助)】

「親から独立して暮らすことは無理」と当事者も含め多くの人が考えている現状をふまえ、そのハードルを下げ、自立生活を実現する住まい

【日中の通所活動(生活介護)】

自立生活をめざす意欲が高まったり、より自分らしい暮らしの実現につながったり、やりがい・生きがいになったりする、障害当事者同士の交流活動や、地域住民、学校や幼稚園など地域の様々な人と時間を共有する活動の場

また、障害福祉サービスの事業としてではありませんが、障害当事者やそのご家族、相談事業所を含めた福祉事業所、行政などからの様々な相談への対応。そして、より良い障害者福祉施策を展開できるよう行政への提言に取り組んでいます。



あるイベントに出かけた時の一コマ

2.法人の理念～インクルーシブな社会をめざして

障害があるというだけで、同年代の障害のない人と全く違う暮らし・世界で生きていかなければならないのはおかしい！と私たちは考えています。残念ながら、「まな

ぶ」「はたらく」「くらす」のいずれの分野でも、いまの日本の社会は、障害者をまだまだ排除しています。

障害があっても、ありのまま認められ、人として大切にされる、そんな社会にしていきたい。そして、その社会は、障害者だけでなく、誰もが暮らしやすく、生きやすい社会になることだと、私たちは確信しています。実現することは容易ではありませんが、私たちが、私たちが日々行っている支援と、それらが積み重なってすすむ事業を通じて、わずかずつであっても近づいているという実感が私たちにはあります。



大好きなだんじり祭りへ友だちとヘルパーで出かけました

3.職場の様子～多彩な職員が協力し合って働いています

学生時代に福祉を専攻した人もいれば、そうでない人もいます。また、ボランティアなどで障害者に関わった人もいれば、そうでない人もいます。入職の理由は、濃淡こそあるものの「理念に共感して」がひとつ。もうひとつは、「みんなが楽しそうに働いている」「職員同士の人間関係がフラットに感じた」「転勤がないのがいい」「ずっと勤められそう」など職場に魅力を感じたことです。

日々の仕事では、障害のある子どもから大人一人一人の日々の暮らしに関わり、児童期から支援している場合、50年以上の人生に関わることになるので、チームで取り組むことをとっても大切にしています。障害者がありのまま生きられる社会をめざし、自分らしい暮らしが実現できることに取り組む職員もまた、ありのまま、生き生きとした人生を実現できるよう、一人一人の価値観、ライフスタイルを尊重して、性別、年齢、勤続年数、職責などに関係なくフラットな関係で仕事ができるとともに、プライベートな時間をお互いが尊重しあえる職場になっています。

